

学校企画

研究発表・報告

番号	校名	内 容	部 屋	1	2
A 1	広島中央特別支援学校	テーマ：自ら考え自ら動く幼児児童生徒の育成	会議室 A・B	○	
		(1) 教育研究実践報告「自ら考え自ら動く幼児児童生徒の育成」 ア 研究推進体制と研究推進計画について紹介する。 イ 3年間の研究の経過及び成果と課題について報告する。			
		(2) 理療科 教育研究実践報告 「理療科における ICT を活用した反転授業の研究—視覚障害生徒の自己学習力を高めるための試み—」 本校理療科では、自己学習能力を高め、思考力を深める授業づくりとしてアクティブ・ラーニングの一つである反転授業に取り組んだ。その成果と課題を報告する。			○
		(3) 視覚障害教育・学校の紹介：担当 教育相談部，研究部 ○便利グッズや教具等の展示 ○見え方のシミュレーション ○教材・教具ポスター展示 ○発表内容ポスター展示		○	○
A 2	広島南特別支援学校	テーマ：研究報告「聴覚障害児の思考力を育てる指導の在り方」 概要：本校の全体研究，各学部研究について発表する。 (1) 全体研究について テーマ「聴覚障害児の思考力を育てる指導の在り方」 (2) 各学部研究について ・小学部サブテーマ 「算数科及び自立活動における言語活動の充実を通して」 ・中学部サブテーマ 「各教科や自立活動における基礎学力と言語力を向上させる活動を通して」 ・高等部サブテーマ 「学力向上を目指した教科指導を通して」	小講義室 C	○	
A 3	尾道特別支援学校本校・しまなみ分校	テーマ：地域でつながる，教育でつなぐ School Support Network <School Support Network (SSN) の取組の紹介> 尾道市及び島嶼部の教育機関等における特別支援教育の推進及び，特別支援学校を含む相互連携強化の実現に向けて，特別支援学校を中核としたネットワーク体制（スクールクラスター）やセンター的機能を活用した取組の現状を紹介する。 1 本校版 SSN の取組紹介 (1) 取組（近隣の幼稚園，小中学校，高等学校，大学との提携関係をもとに，特別支援教育推進，ネットワーク体制づくりに取り組む） (2) 成果と課題 2 しまなみ版 SSN の取組 (1) 取組（小中学校，高等学校と 11 月に提携式を行い，来年度以降，幼稚園，保育所，認定こども園等との連携も実施予定。就学区域内のすべての教育機関同士の連携強化，ネットワーク体制作りに取り組む予定） (2) 今後の予定	小講義室 A	○	○

番号	校名	内 容	部 屋	1	2
A4	福山特別支援学校	<p>テーマ：重度・重複障害の児童生徒に対する認知・コミュニケーション指導の在り方～本校アセスメントチェックリスト・指導のための手引の活用～</p> <p>今年度、公益財団法人広島県教育振興会の平成27年度教育助成金の交付を受け、「重度・重複障害の児童生徒に対するコミュニケーション指導の在り方」について研究を行ってきた。その研究について報告する。</p> <p>(1) 「重度・重複障害児のアセスメントチェックリスト、それに対応する手引」の作成の目的・作成経過について</p> <p>(2) 「重度・重複障害児のアセスメントチェックリスト、それに対応する手引」の内容・使用方法について</p> <p>(3) アセスメントチェックリスト、手引きの活用 ～実践、個別の指導計画、学習指導案等への反映 等～</p> <p>上記に示す取組を行っていく中で、本校のアセスメントチェックリスト・手引を活用する。そして、的確な実態把握→課題設定→適切な指導内容→チェックリストによる再評価→改善によるAPDCAサイクルを確立し、系統性のある一貫した指導の充実を目指している。</p> <p>※研究報告は、一回30分で同一内容を二回行います。</p>	小講義室F	○	○
A5	福山北特別支援学校	<p>テーマ：フッキー版 学びの変革</p> <p>知的障害教育では、従来、教科等を合わせた指導形態を中心に、児童生徒の主体的な活動を追究してきた。教材教具の工夫や、教師の関わり方を含めた指導の工夫によって、児童生徒が何をどうするかが分かると、自分から活動に参加し始める姿をみることができる。しかし、それだけで主体的な学びと言えるのだろうか。</p> <p>そこで、本研究では、授業研究を通して知的障害のある児童生徒の「主体的な学び」について考えてみた。</p> <p>① 「学びの変革」を知的障害特別支援学校ではどのように捉えるか ② 本校での取組について ③ 学びの変革についての視点 ④ まとめ ⑤ 討議</p>	中講義室B	○	○
A6	庄原特別支援学校	<p>テーマ：本校の研究成果・取組の発表 授業での取組や児童生徒への支援の工夫等（ポスター発表）</p> <p>今年度本校では、研究テーマ「児童生徒が自ら考え、自ら動く授業づくり～目標設定と評価の在り方について」と設定した授業研究と並行して、みずほ教育福祉財団の助成を受け、観点別評価を導入した授業研究の在り方の研究を進めてきた。特に、学習指導案の様式の工夫と学習評価と授業評価の整理、研究協議のもち方について取り組んできた。その成果と課題について発表する。また、ポスター発表については、本校の公開授業研究会において発表した内容である。</p>	小講義室D	○	

番号	校名	内 容	部屋	1	2
A7	広島北特別支援学校	<p>テーマ：職業コースの実践（作業学習）を振り返って</p> <p>高等部普通科職業コースが設置され、7年目を迎えた。 本校職業コースの作業学習の概要説明の後、「食品加工分野」に焦点を当て、実践報告する。 「食品加工分野」では、製パン、製菓、接客について学習し、就労に向けての態度や意欲を育てることを目標としている。 3年目に営業許可証取得、その後、特色ある作業学習の教育内容作りを目指して、地域資源を活用した新製品の開発を目指してきた。現在、加計高等学校芸北分校の生徒が育てたりんごと、地元可部の酒造会社の酒粕を利用した製品開発を行い、製品化・販売に至っている。 実践報告後、参加校の意見交換の時間を設定し、作業学習で目指していくものについて、協議する。 * 同一内容を2回行います。</p>	小講義室B	○	○
A8	市立広島特別支援学校	<p>テーマ：生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり</p> <p>本校のむし歯罹患率率は、県内の特別支援学校の平均を若干上回っており、歯垢、歯肉の状態を見ると、約半数の児童生徒に課題がある。また、口腔内や口周囲の過敏性から歯磨きに抵抗を示す児童生徒も少なくない。 そこで、むし歯及び歯周病のある児童生徒「0（＝パーフェクト）」を目標に、学級活動、学校行事、教材の作成等、さまざまな角度から取組を行った。さらに学校歯科医、広島市歯科医師会、広島大学障害者歯科、保護者と連携して歯科保健の向上に努めた。これらの具体的な取組内容とその成果について報告する。 なお、今回の発表は、平成25・26年度生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業の内容に、その後の経過や成果を加筆したものである。</p>	中講義室D	○	

ポスター発表・教材教具展示

番号	校名	内 容	部屋
B 1	県立広島特別支援学校	テーマ：実態把握を踏まえた的確な目標設定と指導環境～広特版チェックリスト（試案）の活用を通して～	体育館
		<p>本校は今年度から「児童生徒が確実にステップアップするための授業づくり」を3年間の研究テーマとして進めており、本年度の研究の取組について発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広特版チェックリスト（試案）と学習指導要領を活用した目標の設定 ・単元計画・学習指導案を活用した指導と目標に準拠した評価を一体とした授業改善 ・本校独自の「指導環境」の分類と研修会による周知と深化 ・小学部、中学部、高等部の一貫した教育の実現へ向けた取組 	
B 2	西条特別支援学校	テーマ：自立活動を主とする教育課程における、自立活動と各教科等を合わせた指導について～小学部表現活動の実践～	体育館
		<p>本校では、自立活動主の教育課程において、自立活動と各教科等を合わせた指導として、生活活動と表現活動を実施しています。小学部での表現活動の授業実践をもとに、表現活動の目的や指導内容、手立て等について紹介します。</p>	
B 3	広島西特別支援学校	テーマ：病弱教育におけるICTの活用～本校の実践から～	体育館
		<p>病弱児の教育的ニーズを①学習上のニーズ（学習時間や学習の場の制限によって生じるニーズ）②身体的なニーズ（姿勢維持の難しさや身体活動の制限によって生じるニーズ）③精神的なニーズ（病気の治療等に対する不安の軽減のため必要な心のケアに関するニーズ）④社会的なニーズ（社会とのつながりの希薄さによって生じるニーズ）の4つに分類し、それぞれのニーズに応じた本校の取組を紹介する。取組から、ICTを活用した学習環境は、児童生徒の心の成長や学力伸長に影響していることを導き出し、病弱教育におけるICTの活用の今後について考える。</p>	
B 4	廿日市特別支援学校	テーマ：専門職（OT, PT, ST）との連携について	体育館
		<p>OT, PTとの連携に関しては、本年度から専門職研究協議会を各学部1事例ずつ実施している。授業参観後、専門職研究協議会において、前期の個別の指導計画（自立活動）についてのアドバイスをいただき、前期の学習活動を展開している。その後、前期のアドバイスと取組を後期の個別の指導計画の作成に反映させることがねらいである。後期に入り、再び授業参観をしていただき、それぞれのケースについてさらに討議を深めている。それらの取組の一連の流れを表にまとめて発表する。</p> <p>STとの連携については、各学部のニーズのある児童生徒について、本年度27時間を実施中である。担任からの摂食指導及び言語指導における相談内容とそれに対するSTからのアドバイス等について整理して発表する。</p>	
B 5	三原特別支援学校	テーマ：三原特別支援学校の地域活動	体育館
		<p>本校では、自立、社会参加そして社会貢献に主体的に挑戦できる人間の育成を目指して、高等部生徒を中心に社会貢献として、地域活動に取り組んでいます。主な取組として、「高等部ボランティア清掃」「小泉小学校清掃」を行っています。「高等部ボランティア清掃」は三原駅でのゴミ拾いやガムの剥ぎ取り、学校前バス停清掃、「小泉小学校清掃」では高等部サービス班が地域の小泉小学校で、作業学習で習得した技術を生かして廊下や体育館、グラウンドの清掃を行っています。今年、初めて参加しました「三原やっさ祭り」、「総合文化祭プレ大会」の様子も紹介します。</p>	

番号	校名	内 容	部屋
B6	三原特別支援学校	テーマ：本校の「授業づくり」について	体育館
		<p>本校のミッション「自立，社会参加そして社会貢献に主体的に挑戦できる人間の育成を目指す」を受けて，今年度は「育てたい児童生徒像を意識した授業づくり～場面設定の工夫で育てる児童生徒のつながり～」を研究テーマとして授業づくりに取り組んでいます。小・中・高等部縦割りによるグループ協議や教科部会等を通して，12年間を見据えた日々の授業づくりや社会参加及び社会貢献を意識した系統性のある教育内容（年間指導計画）の作成に向けた取組を紹介します。</p>	
B7	呉特別支援学校	テーマ：小学部段階から高等部段階にかけての指導内容の系統性について	体育館
		<p>① 平成27年度公開授業研究会の取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業対象授業について ・全体協議会について ・「平成27年度呉特別支援学校 基本行動にかかわる系統表」について <p>② 「呉特支版 基本行動チェックリスト」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活用方法と児童生徒の変容について 	
B8	呉特別支援学校	テーマ：表現力の育成に向けた学習活動	体育館
		<p>生徒が自分の思いを相手に正確に伝え，相手と円滑にコミュニケーションをとるためには，生きる力である思考力・判断力・表現力の中でも特に表現力の育成が必要不可欠です。そこで，今回は発語のある生徒に焦点を当て，言葉での表現力の育成を図るためにどのように知識・技能を身に付けさせていくか，また，生徒が身に付けた知識・技能を活用して，どのような学習活動が展開できるかについて，今まで取り組んできた内容の発表を行います。</p>	
B9	呉特別支援学校	テーマ：自閉症の生徒に対して学校・家庭・福祉事業所において一貫した支援を行うためのツール作り	体育館
		<p>学校・家庭・福祉事業所など様々な場所で過ごす自閉症の生徒に対して，一貫した支援を行うことで生徒が落ち着いて過ごすことにつながると考え，家庭・事業所と連携して，全ての場所で共通して使用できるツールを作成しました。</p> <p>ツール作りと共に，生徒の実態に基づいて適切なコミュニケーションを図る方法（生徒の課題である，不適切な行動を減らしていくための方法）についても取組を行っているのので，その実践例も合わせて発表します。</p>	
B10	呉特別支援学校	テーマ：安全な道具の取扱いを身に付ける～作業学習をとおして～	体育館
		<p>本校の研究テーマである，「分かって動ける授業づくり，動きを促す授業づくり」から考えた作業学習（木工）では，必要な支援を必要なだけ行うことで，指導者からの過剰な指示や支援を行うことなく，生徒のもつ力で作業をやりきることができる授業をめざして授業づくりを行っています。</p> <p>木工で扱う道具には，のこぎりや電動サンダーなど，取扱いを誤ると大きな事故につながることもある物があります。発表では，主に安全面を意識した行動を身に付けるための取組や支援を紹介します。</p>	

番号	校名	内 容	部屋
B11	呉特別支援学校	テーマ：筋力・持久力・調整力などの体力を向上させるための授業実践について	体育館
		<p>本校では、今年度「朝の運動」の時間を設け、各クラスで生徒の実態に応じた運動を行っています。6月に行った新体力テストの結果から筋力・持久力・調整力等の様々な体力が平均値よりも大幅に低いことを受け、総合的に体力を高めるために、本学級では、様々な動きを取り入れたサーキットトレーニングを行うこととしました。</p> <p>サーキットトレーニングの内容と、そのトレーニングを行ったことで、どのように筋力・持久力・調整力などの体力が向上していったのか、発表を行います。</p>	
B12	呉特別支援学校	テーマ：教育情報整備に関わる改善について	体育館
		<p>本校では、教職員・生徒が情報機器を利用し、保護者や生徒のニーズに応じた教育の実施環境を整備することを目的とし、今年度4月末から8月末に校内における情報機器の整備を行いました。その校内情報機器整理の方法、改善した点、管理方法、今後の取組についての内容です。</p> <p>組織的に教育情報機器の管理、整備及び改善を行い、ICT活用授業を重ね、授業改善や障害特性に応じた教材研究、教員の指導力の向上を図っています。</p>	
B13	呉特別支援学校	テーマ：児童が見通しをもって活動するための日課表、手順表についての検討	体育館
		<p>年間を通して、本校の研究テーマである「分かって動ける授業づくり、動きを促す授業づくり」に基づいて研究を行ってきました。その中で、「次の活動に見通しをもてる」ことが、児童の主体的な行動を促すためのポイントであると考えようになりました。</p> <p>そこで、1日の流れや授業の流れに見通しをもって活動するためには、どのような日課表や手順表が有効であるかについて検証を重ね、改善を図ってきました。その成果や、実践をする中で生じた課題について発表を行います。</p>	
B14	呉特別支援学校	テーマ：一人一人の児童の実態に応じた個別課題の検討について	体育館
		<p>個別課題を作成し、PDCAサイクルに基づいて実施・評価し、改善した事例について発表を行います。具体的な内容としては、対象児童の1から10までの数量のイメージづくりのための課題です。課題を行う中で、児童の現状把握ができる課題を作るようにしています。</p> <p>そのうえで、1から10までの数字と半具体物とを一対一対応させるなどの課題を行い、児童の活動する様子を見ながらどういった課題を行うことで数量のイメージが定着するのかを検討し、課題の改善を繰り返しています。</p>	
B15	呉特別支援学校江能分級	テーマ：「分かって、伝え、行動できる授業づくり」に向けて	体育館
		<p>本校では、「フォーマルアセスメントやインフォーマルアセスメントによる適切な実態把握を行えば、児童生徒の目標や支援の手立てが明らかになる」という仮説に基づき、過去6年間の研究を行ってきた。それに伴い、「学習指導案（様式）」や「研究授業後のまとめ（様式）」、取組検証の場としてのケーススタディ会議で用いる「ケーススタディ（様式）」、研究協議会の持ち方等、課題の設定や支援の在り方について検討し、改善してきた。高等部卒業後の生活を想定した「めざす姿」から目標設定に取り組み、授業改善を行っている。</p>	

番号	校名	内 容	部屋
B16	沼隈特別支援学校	テーマ：広島県立沼隈特別支援学校教育研究 ～新たな研究テーマでの取組～	体育館
		<p>昨年度まで3年間行ってきた研究（テーマ：「児童生徒が自信を持って活動に参加できる授業づくり～やればできる体験を積み重ねることを通して～」）の成果と課題をふまえ、今年度より新たな研究テーマ（『児童生徒一人一人が「分かる、動ける、できる」授業づくり』）で研究に取り組んでいる。</p> <p>新たな研究テーマの研究構想、取組の実際、今後の方針をポスターで提示する。</p>	
B17	黒瀬特別支援学校	テーマ：児童生徒一人一人の「働く」生活を目指した授業づくり ～意欲、主体性を高める授業づくりと評価のあり方～	体育館
		<p>本校では、小学部から高等部まで一人一人の児童生徒が「わかる」「できる」経験を積み重ね、「やりたい」「なりたい」気持ちや「働きたい」という夢や希望をもち、主体的に生活できる力をつけていけるよう日々の授業の実践の中で取り組んでいる。</p> <p>このポスターは、「意欲」「主体性」「評価」をキーワードにキャリア教育の観点をふまえて、小学部、中学部、高等部、および、高等部作業学習で行った授業についての研究をまとめたものである。</p>	
B18	呉南特別支援学校	テーマ：幼児児童生徒の言葉で考える力を育成するために	体育館
		<p>聴覚障害部門グループ</p> <p>幼稚部：自分の思いを言葉で伝えようとする意欲を育成するために</p> <p>小学部：自分の考えを論理的に説明する力を育むために</p> <p>中学部：場面や状況に応じて発信しようとする力を育成するために</p> <p>それぞれサブテーマを掲げ、幼稚部では絵本の読み聞かせ、小学部では算数科における言語活動、中学部では1分間スピーチや作文指導を中心に取組を進めています。各学部における取組の様子や教材・教具を発表します。</p>	
B19	呉南特別支援学校	テーマ：「理解言語」の力を育てる国語科の指導	体育館
		<p>知的障害部門小学部単一障害グループ</p> <p>本グループでは、「理解言語」を多く獲得することにより、豊かな学校及び日常生活を送ることができるであろうという仮説を立てて研究を進めています。</p> <p>「理解言語」の獲得数は本グループで考えた検査を用いてチェックをし、発達水準表に基づいた実態把握と課題設定を行い授業づくりに取り組んでいます。本グループでの取組や発達水準表の説明、また発達水準表に基づく教材・教具の展示を行います。</p>	
B20	呉南特別支援学校	テーマ：作業学習における呉南式授業づくりの確立	体育館
		<p>知的障害部門中学部・高等部単一障害グループ</p> <p>今年度高等部が開設しました。本グループでは作業学習において授業の展開パターンや指導方法を統一させることで、より生徒が主体的に学び、考えて動く力がつけられるのではないかと仮説を立てて研究を進めています。呉南特別支援学校として中学部・高等部の作業学習の系統性を考えて授業づくりの確立に向けて取り組んでいます。</p> <p>両学部における取組の様子を紹介します。</p>	

番号	校名	内 容	部屋
B21	呉南特別支援学校	テーマ：児童生徒の実態に応じた教材・教具の開発	体育館
		<p>知的障害部門重複障害グループ</p> <p>実態に応じた教材・教具を提示することで、児童生徒が興味・関心をもつことのできる教材数が増えてくるのではないかと仮説を立てて研究を進めています。現在持っている教材をそれぞれ出し合い、感覚別、種類別に整理し、そこから必要な教材・教具を考えました。今年度は、自作のスイッチで動くおもちゃ作りの取組を紹介します。</p>	
B22	市立広島特別支援学校	テーマ：環境づくりに視点を当てた「やってみたい、やってみよう、もっとやりたい」と思える体育学習	体育館
		<p>本校は、今年度11月13日に開催された第54回全国学校体育研究大会広島大会において、授業を公開し研究発表を行いました。児童生徒がより主体的に動けるために、環境づくりに視点を当てて、物理的支援環境、人的支援環境の充実を図りながら、指導方法の工夫を行ってきました。研究を進める中で作成した、「環境づくり事例集」や「指導内容一覧表」、また「授業づくりシート」を活用し、指導と評価の一体化を図りながら進めてきた授業づくりについて紹介します。</p>	